

「風力・太陽光、北海道には可能性」

自然エネへ転換 札幌市長に力説

ドイツの大学教授

「北海道は自然エネルギーが豊か。東京電力福島第一原発事故を契機に新しい日本のエネルギービジョンをつくろう」。脱原発を決めたドイツのエネルギー委員会メンバーで、ベルリン自由大学のミランダ・シュラーズ教授が9日、上田文雄・札幌市長を表敬訪問し、「持続可能なエネルギー推進に主導力を」と説いた。



ミランダ・シュラーズ教授＝札幌市役所

り原発事故をきっかけに脱原発の機運が生まれ、福島原発事故で「原発全廃」の方針を決めたという。

「エネルギー転換は簡単ではないが、ドイツでは地方都市ほど熱心に取り組み、国に元気が出た」と明かした。日本はエネルギー資源に乏しいとされるが、「自然エネルギーがあり、むしろ豊かな国」。特に道内は風力、太陽光で可能性を秘めた地域とした。

今冬の道内は夏より電力不足が深刻とされる。シュラーズ教授は市役所内を見渡し「カーテンを開けたら電灯を消せる。まだ節電の余地がある」と強調した。

シュラーズ教授は北大での集中講義で来札。脱原発の思いを伝えるため、エネルギー問題に詳しい北大大学院の吉田文和教授とともに上田市長を訪ねた。

(網島洋一)